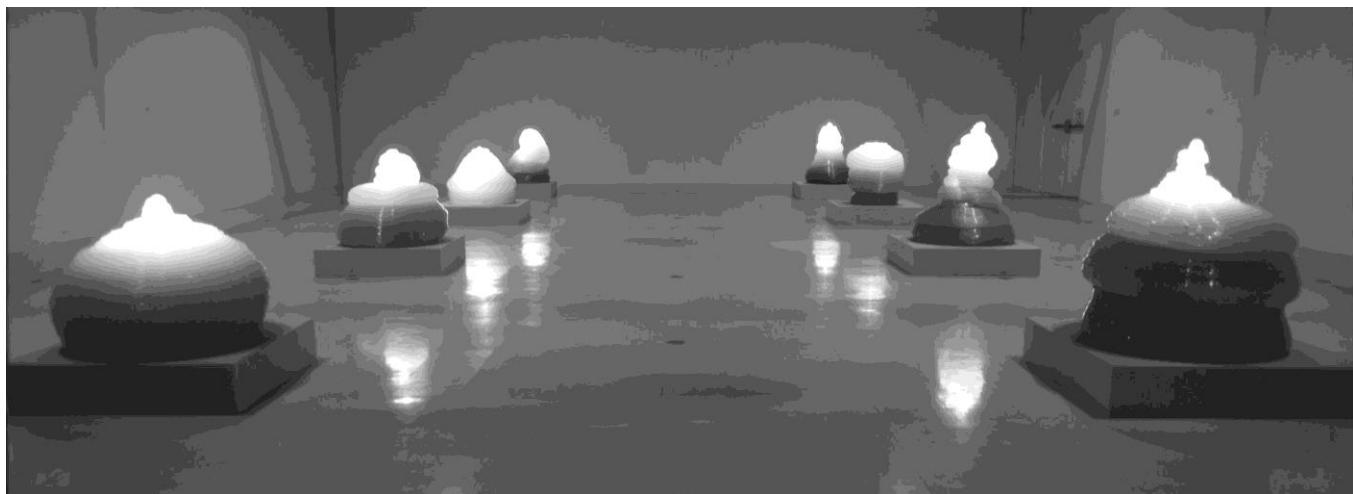




ギャラリーにはガラスの彫刻が展示されています

日本の現代美術家角永和夫が「刺激的な生き物を形作る。」



角永和夫ガラス彫刻8点が3月6日まで大学美術館に展示されています。
アーロン・プラット / デイリー・アズテック

彫刻：ガラスは残り、120日間ゆっくりと冷却します

文・A. Jaynelle

St. Jean・寄稿者

日本からメキシコ、オーストラリア、そしてヨーロッパ全土で、角永和夫のガラス彫刻は国際的に高い評価を得ています。

展示会は現在、大学アートギャラリーが主催する大学の裏庭で開催されています。半透明の緑の塚（サイエンスフィクション小説の刺激的な生き物）は、日本の現代美術家角永和夫の最新作であり、3月6日まで展示されます。

ギャラリーディレクターのティナ・ヤペリ氏は、「これは学生に国際的な作品を届けるためです。私たちの学生は他にどこで日本からの作品を見るつもりですか？」と語った。

19個のシリーズのうち8個が展示されており、最も重いものは1,900ポンドです。ソルトレイクシティのソルトレイクアートセンターのディレクターであるリックコリアー氏は、角永についてのエッセイで、製造プロセスには、予熱された窯の10フィート上にある炉から溶融ガラスの連続ストリングを注ぐのに48時間の時間と忍耐が必要です。

草は窯の上部にある12インチの開口部を通って内部の鋼板に通します。閉鎖されたコンピューター制御の環境では、液体ガラスのランダムな蓄積が止まり、120日間ゆっくりと室温まで冷却されてから除去されると彼は述べた。

一つの彫刻には時間がかかるため、角永は毎年最大4点しか制作できないと妻の由美子氏は語った。このプロセスの一部は、展示の一部としてビデオで示されています。

テープは何時間も転がり、上から注がれて燃えるようなガラスの無限の流れを示しています。

それぞれの作品は独自の形をしています。翻訳者としての妻の助けを借りて、角永は自分自身をガラスの芸術家とは考えていないと述べた。

彼の主な関心事は、一般的な材料を選択し、その特性を調査して、その材料を活用するための最良の方法を見つけることです。たとえば、彼が木を扱うとき、彼は切断または切り込みを使用しました。

彼は彼らにできるだけ簡単に自分自身を表現させたいと彼は言った。角永は普通の素材を使った作品で知られています。過去には、紙、木、竹、蚕の繭を使用していましたが、展示中に孵化し始めました。

「この展示のために組み立てられたガラス作品は、共通の素材、シンプルなプロセス、予測不可能な環境とのアーティストのコラボレーションの成功を視聴者に確認します」とコリアー氏は述べています。

この展示をはじめとする本は、東端のアートビル4階にあるユニバーシティアートギャラリーで販売されています。1970年代後半から角永として有名なアーティストの作品をホストしています。

「ユニバーシティアートギャラリーでのすべての展示会の目標は、アートに対する認識を広げ、学術研究で遭遇するものの境界を広げるアートワークを特集することです」とヤペリ氏は述べています。展示会は芸術、デザイン、美術史の学校によって後援されています。専門学校と美術の大学；教育関連の活動のための基金。追加のサポートは、University Art Councilによって提供されました。」